

シンポジウムSY2-4 魅力ある技師認定制度の確立を目指して

松田健太郎

医療法人財団樹徳会 上ヶ原病院

今後の技師認定制度のあり方について、高気圧酸素治療(HBO)に携わる看護師として看護業界での資格制度の情報も織り交ぜ、検討したい。

看護師が自身のキャリアアップのために取得を目指す資格として人気上位に必ずあげられるのは、日本看護協会が認定制度を統括する専門看護師と認定看護師である。一見似たように思われるそれぞれだが、その役割や取得のための難易度は大きく違っている。

専門看護師は現在13の専門看護分野があり、看護師として5年以上(うち専門分野3年以上)の実践経験を持ち、看護系の大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得した後に、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格である。審査合格後は専門看護師としての活動と自己研鑽の実績を重ね、5年ごとに資格を更新するものである。その活動内容は患者・家族に起きている問題を総合的に捉えて判断する力と広い視野を持って、専門看護分野の専門性を発揮しながら専門看護師の6つの役割『**実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究**』を果たし、施設全体や地域の看護の質の向上に努めるものである。それに対して、認定看護師はA課程21分野とB課程19分野があり、看護師として5年以上(うち認定分野3年以上)の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格である。審査合格後は認定看護師としての活動と自己研鑽の実績を積み、5年ごとに資格を更新するものである。その活動内容は患者・家族によりよい看護を提供できるよう、認定看護分野ごとの専門性を発揮しながら認定看護師の3つの役割『**実践・指導・相談**』を果たして、看護の質の向上に努めるものである。

看護師にとって魅力を感じる資格は、単に自己研鑽に留まらず、昇進や昇給につながり、転職や再就職の際に有利に働くものが多い。それらは、病院にとっても施設基準にかかわり、診療報酬にも影響する。例

えば、感染対策向上加算1における感染管理認定看護師がそれである。しかし、残念な事にHBOを行う上では、必須の資格はなく、診療報酬上の加算もない。安全の担保や知識向上といった観点からいえば、現在の資格制度は一定の役割を果たしている。しかし、昇進や昇給、病院の収益増といった観点からはその意義を果たすものではない。その上、取得の難易度には多少の差があるものの、認定団体の違いによる資格が3つも存在しており、それぞれの活動内容に明確な違いはなく、決して魅力を感じるものではない。

看護師の場合、両学会の資格を取得することが可能であり、裾野を広げるという意味では学会会員であることが義務付けられておらず、容易に取得が可能なJACHODの制度は有効かもしれない。しかし、エキスパートとしては心もとない。

国内における高気圧酸素治療の更なる発展のためには、両学会が手を組み一つになる事が望まれる。その際には資格制度の抜本的な改革を願う。資格制度を統一する事にこだわらず、看護師のように認定と専門の2つに分け、それぞれの意義や目的を明確化すること。そして、更新制度も現在の単位制に留まらず、それぞれの目的に応じて難易度を上げるなどの見直しを行い、資格制度そのもの位置づけを高める必要があると考える。更には、HBO実施における資格の必須条件化や診療報酬上の優遇措置などが実現する事が期待される。

最後に、職能団体であるJACEの資格制度については、両学会の資格制度とは一線をおき、HBOのプロフェッショナルとして臨床工学技士の更なる地位向上のために位置する事を望まれる。

学会として臨床面だけでなく、総合的な観点から教育・研究・後進の育成などを目的に、臨床工学技士・看護師それぞれが魅力を感じる資格制度の確立を目指していただきたい。